

科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」主催  
長野教育文化振興会協力

## 2013年度秋期【新・古典を読む-歴史と文学-】

### 第5回 大伴家持と奈良時代の貴族社会 — 奈良時代的な貴族社会とは? —

開講日時：12/21 (土) 午後2:30～4:30

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：学習院大学 文学部 史学科 教授  
鐘江 宏之(かねがえ ひろゆき)先生

概要： 『万葉集』を編んだ人物として有力視される大伴家持は、奈良時代の歌人として著名であるが、当時の政界で活躍した貴族でもあった。彼の生きた時代には、王権のあり方も揺らぎ、専制政治家も登場して多くの政争があり、家持はその中を生き抜いたのであった。

前時代である飛鳥時代でもなく、また後の平安時代でもない、奈良時代ならではの貴族社会とはどのようなものであったのか、家持の生涯を見ながら、奈良時代の貴族が生きた社会の特徴を考えてみることにしたい。